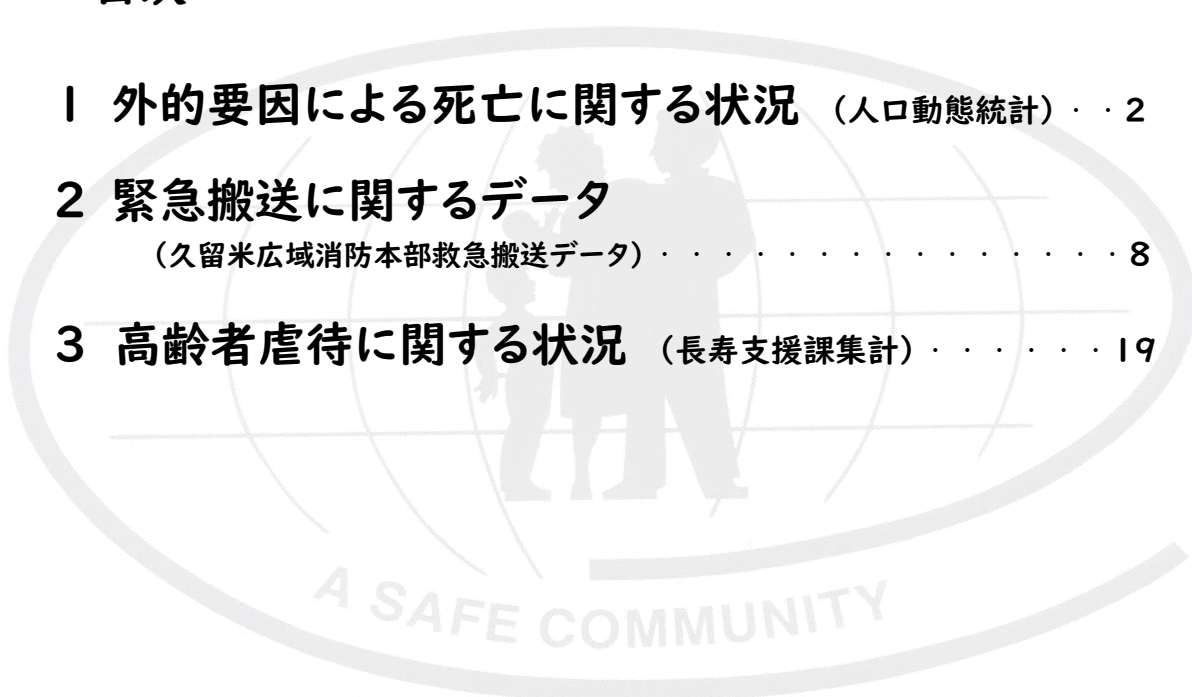


久留米市 主な統計データ

<目次>

- 
- 1 外的要因による死亡に関する状況（人口動態統計）・・・2
 - 2 緊急搬送に関するデータ
（久留米広域消防本部救急搬送データ）・・・・・・・・・・8
 - 3 高齢者虐待に関する状況（長寿支援課集計）・・・・・・・・19

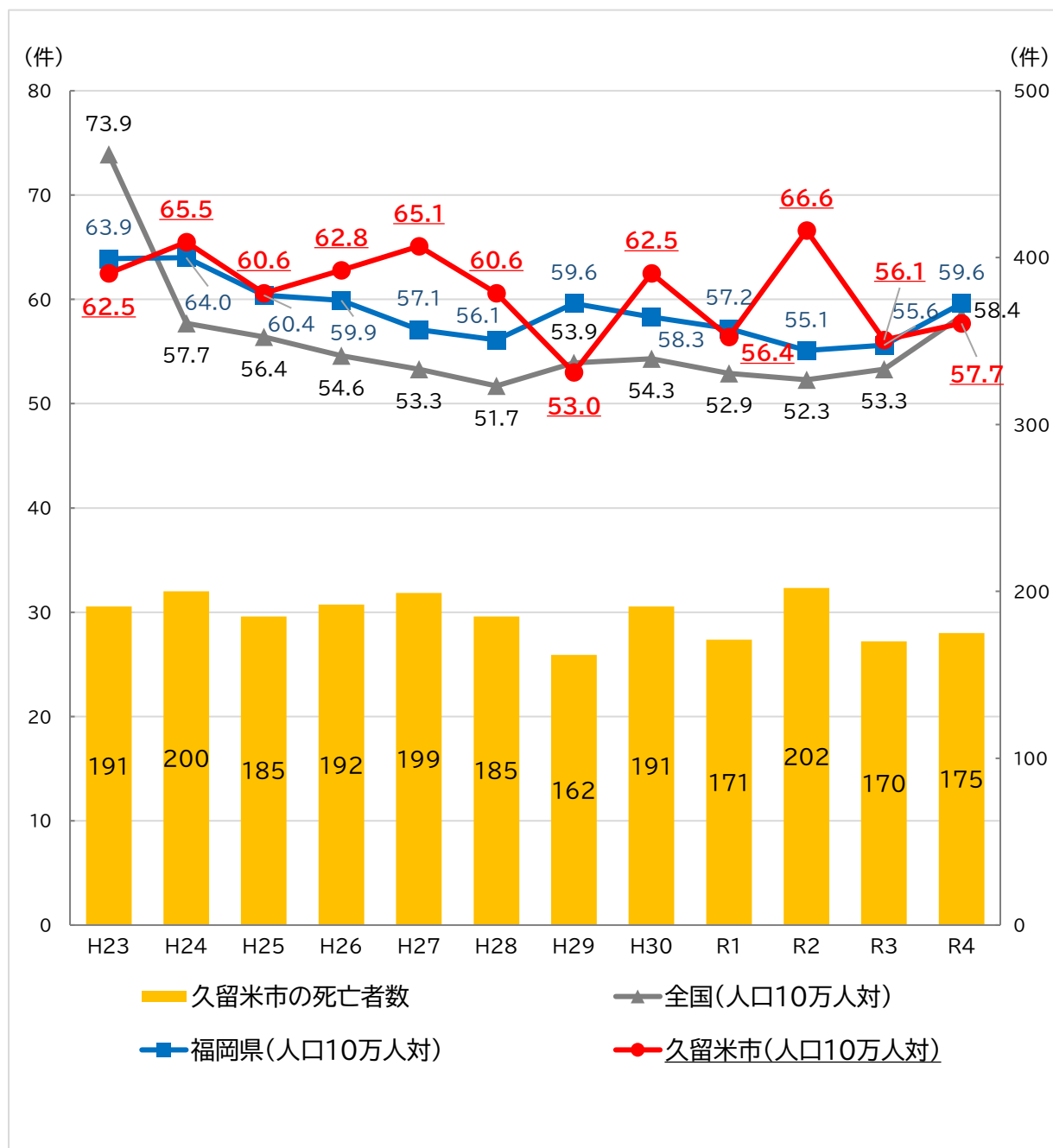
I 外的要因による死亡に関する状況

(1) 外的要因による死亡者数（人口動態統計）

久留米市の外的要因による死亡者数は、ほぼ横ばいで推移しています。

令和4年は前年度より増加していますが、全国や福岡県の上昇率を下回ったことから、人口10万人あたりの死亡者数は全国や県を下回りました。

■[図 3-1]外的要因による死亡者数、及び人口10万人当たりの数の推移



(2) 年齢階級別の死亡原因上位（福岡県保健統計年報） ※病気等による死亡含む

外因及び病気等による死亡原因を年齢層ごとにみると、自殺が10歳代から30歳代までの死亡原因の1位、40歳代から50歳代では2位となっています。

また、30歳代以下では、他の年齢層とは異なり不慮の事故による死亡が死亡原因の上位に位置しています。

■[図 3-2] H29～R3 年の年齢階級別の死亡原因上位 5 位

※()内は人数

年齢層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～9歳	染色体異常等 (14)	周産期に発生した病態 (5) <u>不慮の事故 (5)</u> …溺死溺水(2)、窒息(2)、転倒転落墜落(1) その他の症状 (5)			感染症等(2) インフルエンザ(2)
10～19歳	自殺(16)	新生物〈腫瘍〉(3) <u>不慮の事故(3)</u> …交通事故(2)、転倒転落等(1)	神経系の疾患(2)	消化器系の疾患(1) その他の症状(2)	
20～29歳	自殺(26)	新生物〈腫瘍〉(9) <u>不慮の事故(8)</u> …交通事故(8)	神経系の疾患(6)	その他の症状(3)	
30～39歳	自殺(30)	新生物〈腫瘍〉(24) <u>不慮の事故(8)</u>	その他の症状(6)	内分泌、栄養及び代謝疾患(5)	
40～49歳	新生物〈腫瘍〉(109)	自殺(47)	脳血管疾患(22)	心疾患(17) その他の症状(17)	
50～59歳	新生物〈腫瘍〉(237)	自殺(47)	脳血管疾患(45)	心疾患(44)	消化器系の疾患(37)
60～69歳	新生物〈腫瘍〉(768)	心疾患(97)	脳血管疾患(81)	消化器系の疾患(74)	その他の症状(65)
70～79歳	新生物〈腫瘍〉(1,421)	心疾患(217)	脳血管疾患(193)	その他の呼吸器系疾患(172)	肺炎(140)
80～89歳	新生物〈腫瘍〉(1,664)	心疾患(684)	脳血管疾患(472)	その他の呼吸器系疾患(440)	肺炎(390)
90歳以上	老衰(803)	心疾患(791)	新生物〈腫瘍〉(674)	脳血管疾患(388)	肺炎(343)

(3) 死亡統計における不慮の事故等のデータ (人口動態統計)

①年齢層別 不慮の事故等による死亡の上位 5 位

10～69 歳の自殺の件数は他の要因と比較して特に多い。

また、高齢になるほど溺死・溺水、転倒・転落、窒息による死亡が多い。

■[図 3-3]H30～R4 年の不慮の事故等による死亡の上位 5 位

※()内は人数

年齢層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～9歳	窒息(2)	交通事故(1) 転倒・転落(1) 溺死・溺水(1)			
10～19歳	自殺(15) ↔ 交通事故(2)	転倒・転落(1)			
20～29歳	自殺(27) ↔ 交通事故(6)				
30～39歳	自殺(33) ↔ 溺死・溺水(3)		交通事故(1) 転倒・転落(1) 窒息(1) 煙・火(1) 中毒(1)		
40～49歳	自殺(48) ↔ 窒息(3)		交通事故(2) 転倒・転落(2) 溺死・溺水(2)		
50～59歳	自殺(49) ↔ 交通事故(5)		溺死・溺水(3) 窒息(3)	中毒(2) その他不慮の事故(2)	
60～69歳	自殺(40) ↔ 溺死・溺水(15)	窒息(9) その他不慮の事故(9)		交通事故(7)	
70～79歳	溺死・溺水(59)	自殺(30)	窒息(20)	その他不慮の事故(13) 転倒・転落(13)	
80～89歳	溺死・溺水(78)	転倒・転落(37)	その他不慮の事故(33)	自殺(25)	窒息(24)
90歳以上	転倒・転落(44)	溺死・溺水(28)	窒息(22) その他不慮の事故(22)		自殺(3)
合計	自殺(270)	溺死・溺水(189)	転倒・転落(103)	窒息(84)	その他不慮の事故(80)

(次ページと比較)

過去の累計と比較すると、全体的に交通事故による死亡が減少している。また、10 歳代の自殺、70 歳以上の溺死・溺水、80 歳以上の転倒・転落による死亡数が増加している。

【平成 25 年認証申請書より】

■[図 3-4]H19～H23 年の不慮の事故等による死亡の上位 5 位

※()内は人数

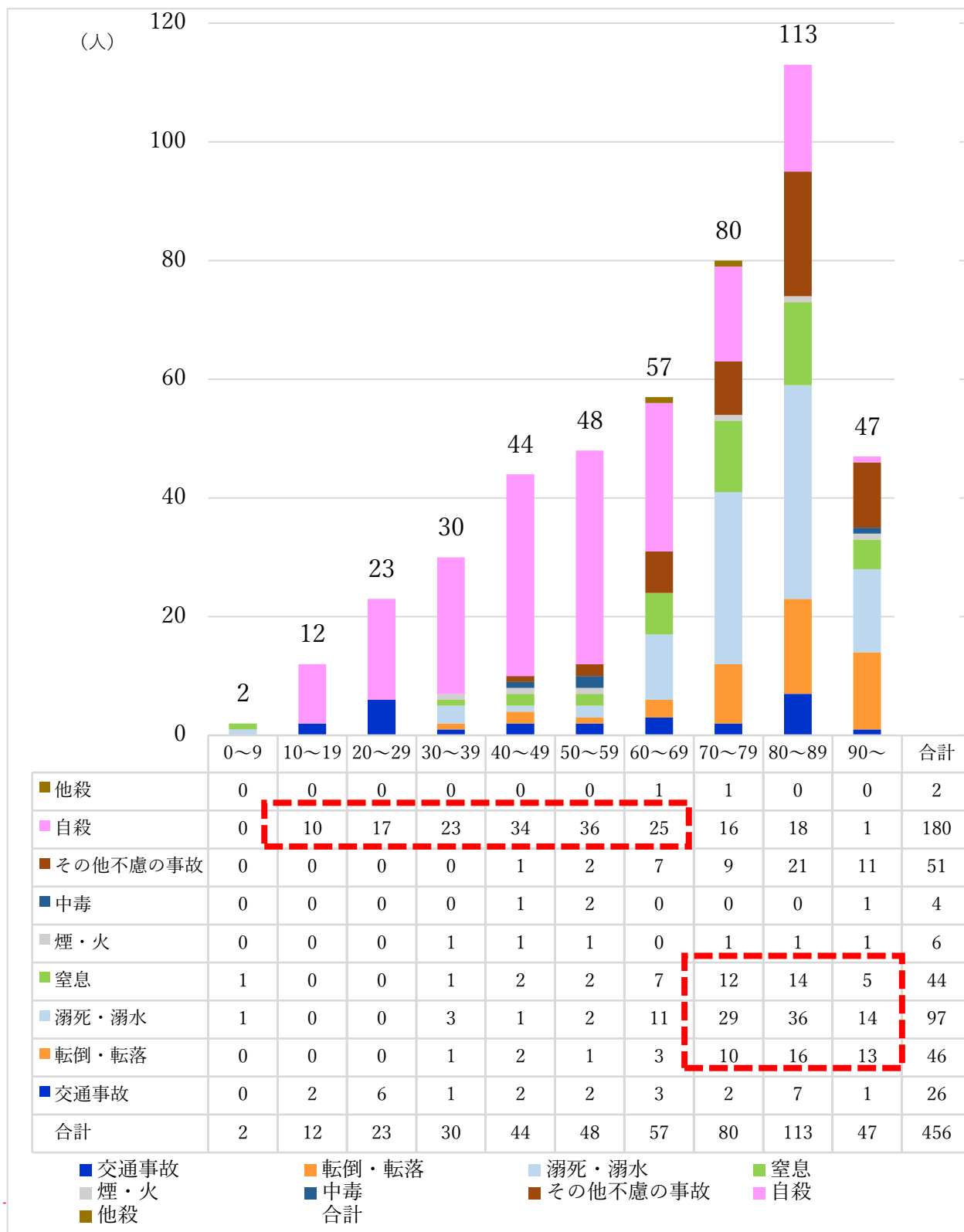
年齢層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～9歳	溺死・溺水(2)	交通事故(1)			
10～19歳	自殺(8)	交通事故(5)	転倒・転落(1)		
20～29歳	自殺(38)	交通事故(7)	溺死・溺水(4)	煙・火(1)	
30～39歳	自殺(59)	交通事故(6)	中毒等(4)	転倒・転落(2)	他殺(1)
40～49歳	自殺(59)	交通事故(6)	中毒等(3)	溺死・溺水(2)	転倒・転落(1)
50～59歳	自殺(86)	交通事故(13)	溺死・溺水(4)	窒息(7)	その他不慮の事故 (6)
60～69歳	自殺(56)	溺死・溺水(14)	交通事故(12)	窒息(10)	転倒・転落(7)
70～79歳	溺死・溺水(44)	自殺(40)	窒息(26)	転倒・転落(25)	交通事故(17)
80～89歳	溺死・溺水(55)	窒息(22)	その他不慮の事故 (28)	転倒・転落(24)	自殺(21)
90歳以上	転倒・転落(23)	窒息(22)	溺死・溺水(11)	その他不慮の事故 (8)	交通事故(6)
合計	自殺(369)	溺死・溺水(143)	窒息(115)	転倒・転落(88)	交通事故(84)

② [男性] 不慮の事故、自殺による死亡数（人口動態統計）

80 歳代の件数が最も多く、要因として溺死・溺水の件数が多い。

10～60 歳代は自殺の件数が最も多く、70 歳以上は、溺死・溺水、窒息、転倒・転落の件数が多くなる。

■[図 3-5] 男性の年齢層別の不慮の事故等による死亡数（H30～R4 年の 5 年間累計）

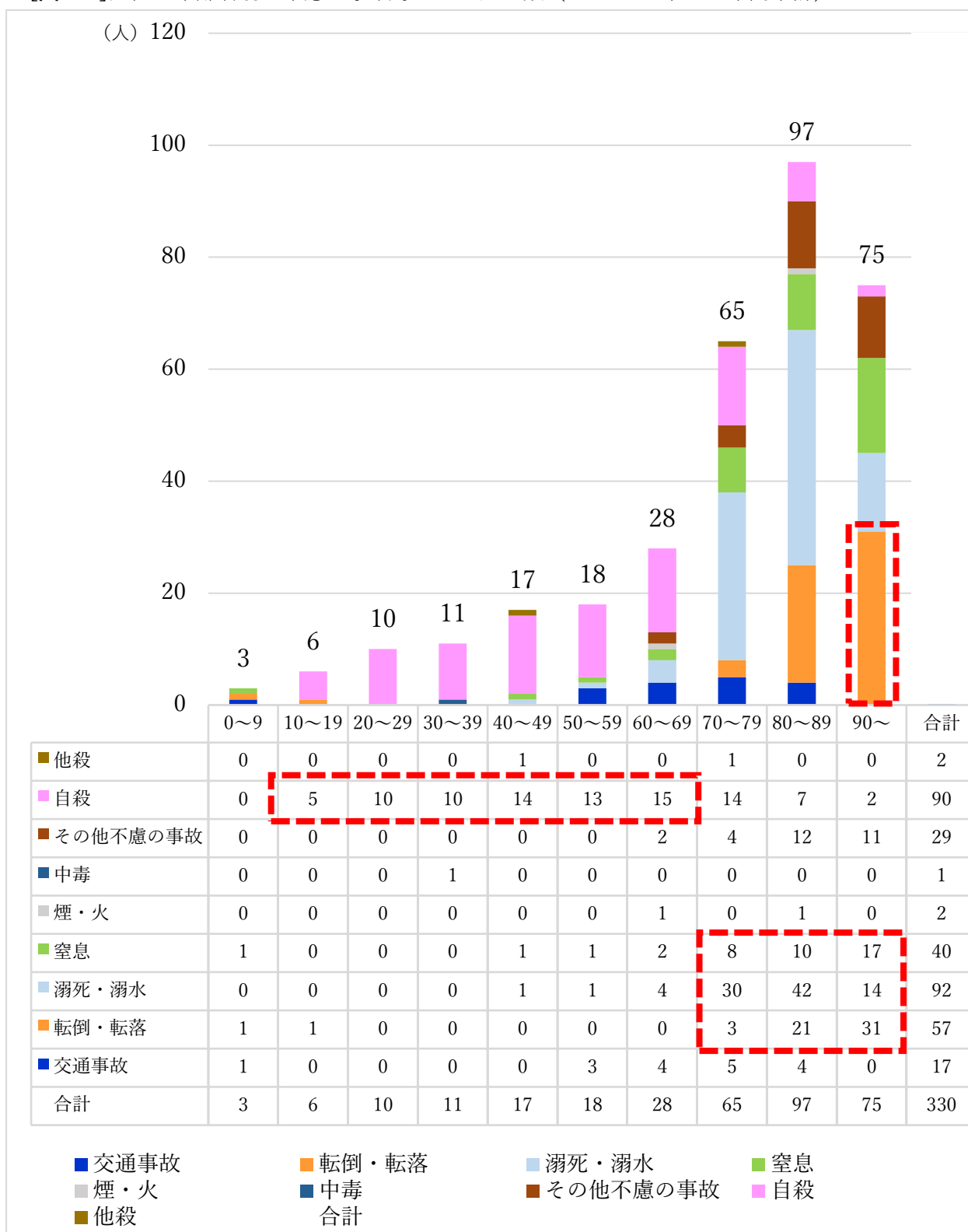


③ [女性] 不慮の事故、自殺による死亡数（人口動態統計、H30～R4 年の 5 年間の累計）

男性と同じく 10～60 歳代では自殺の件数が最も多く、70 歳代以上では溺死・溺水、窒息、転倒・転落である。

なお、男性と比べ 90 歳以上では転倒・転落がによる死亡数が多い。

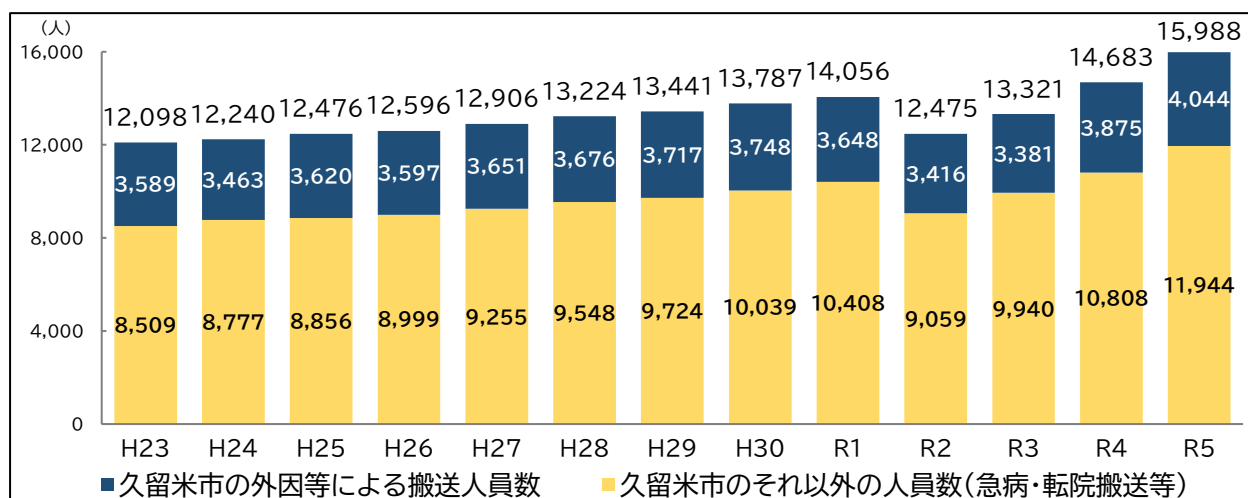
■[図 3-6]女性の年齢層別の不慮の事故等による死亡数（H30～R4 年の 5 年間累計）



2 救急搬送に関するデータ(久留米交通事故域消防本部救急搬送データ)

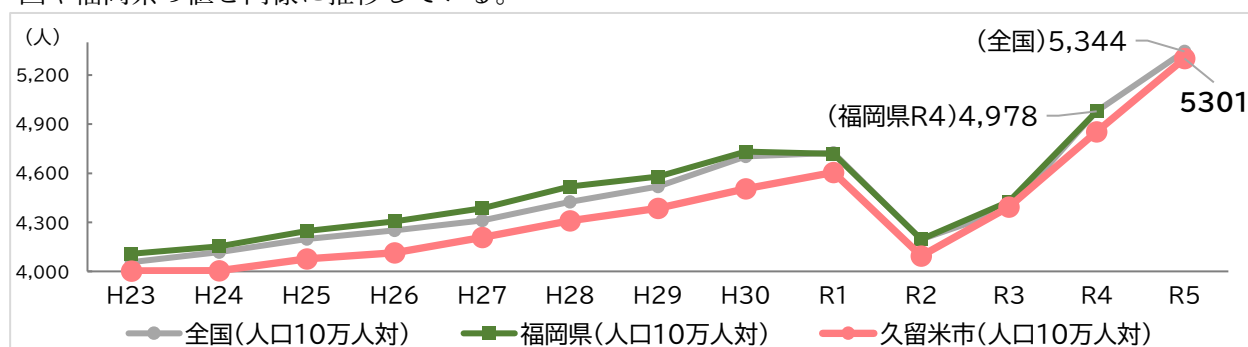
(1) [図 4-1]救急搬送人員数

救急搬送人員数全体及びけがや事故による救急搬送人員数は増加傾向にある。

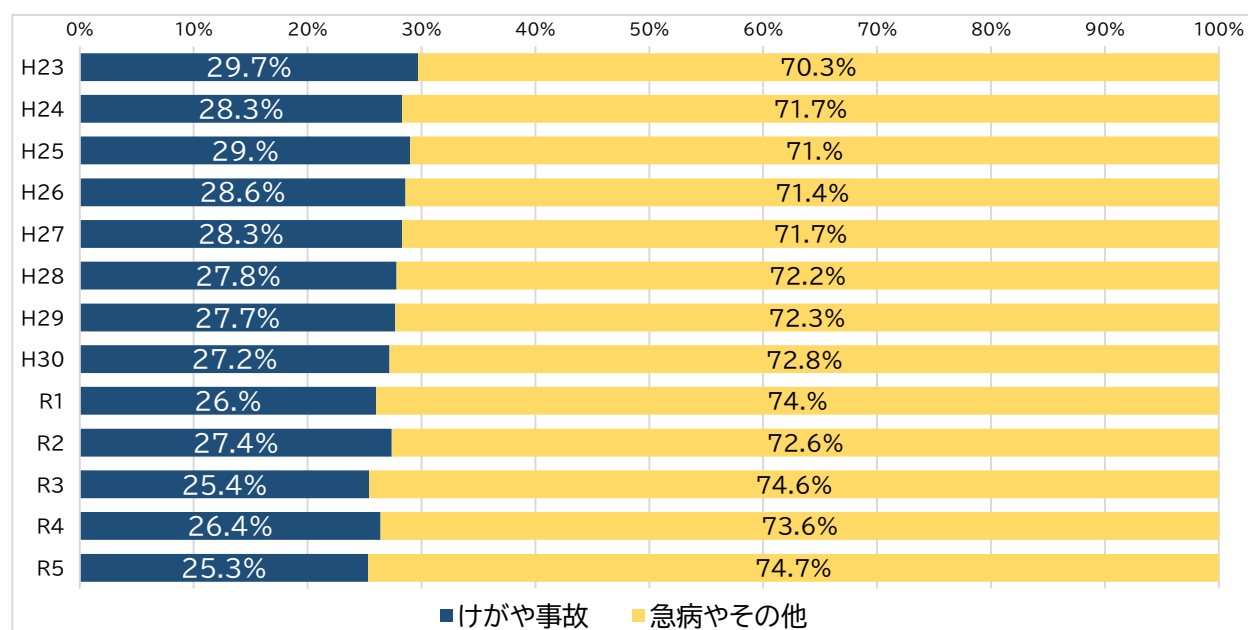


(2) [図 4-2]人口 10 万人当たりの救急搬送人員数 (外因及び急病・転院搬送等含む)

国や福岡県の値と同様に推移している。

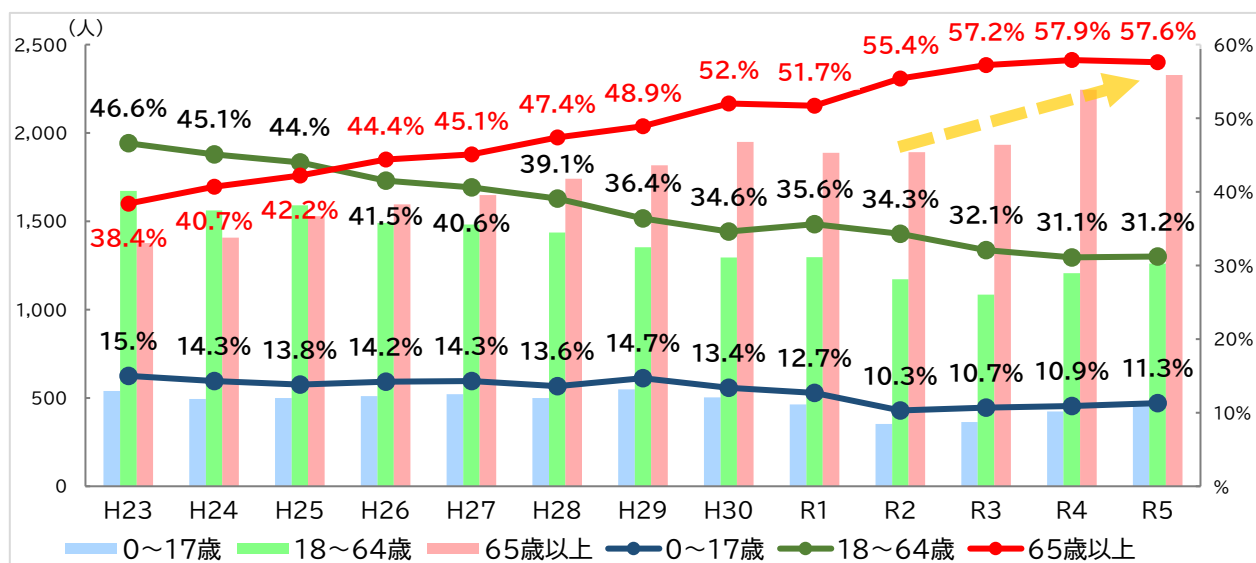


(3) [図 4-3]緊急搬送に占める外的要因 (けがや事故) による搬送割合



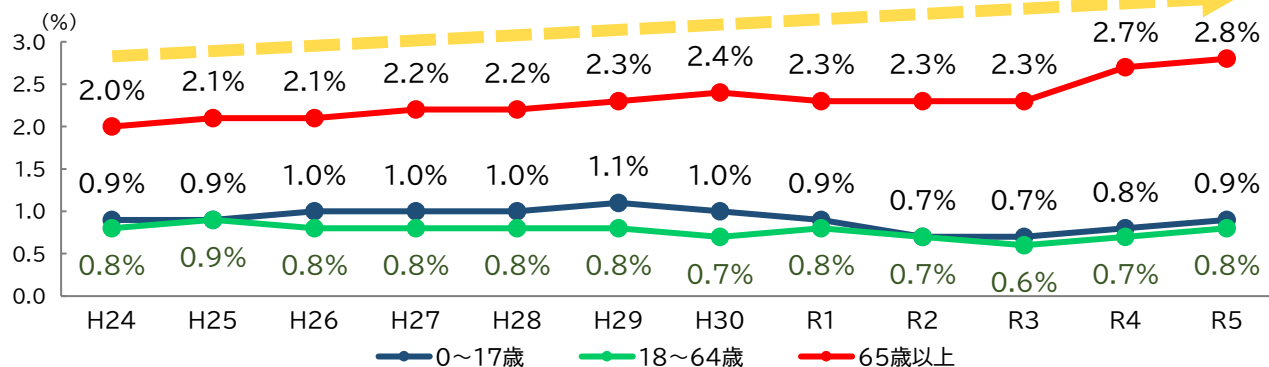
(4) [図 4-4]年齢層別外因による救急搬送人員数

0～17 歳、18～64 歳の搬送数は減少している一方で、65 歳以上の高齢者の搬送数が伸びている。



(5) [図 4-5]年齢層別外因による救急搬送の発生率

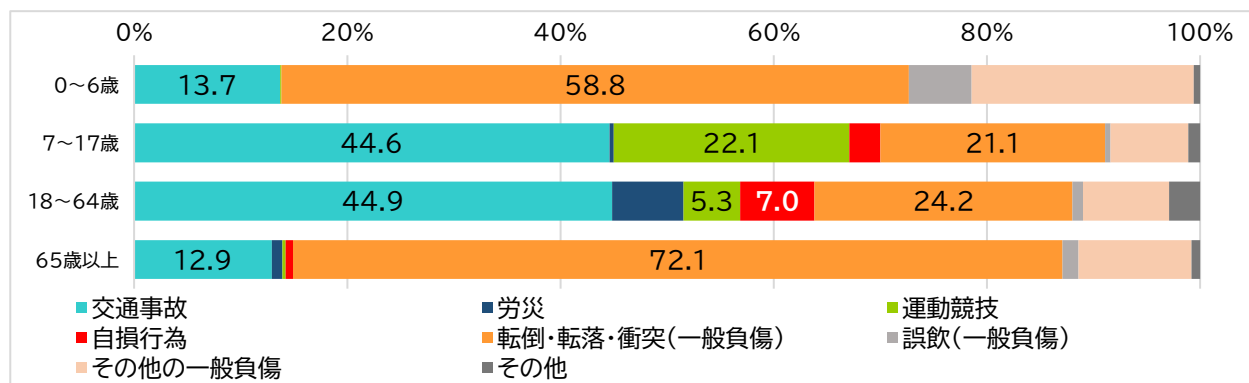
65 歳以上の高齢者の救急搬送の発生率は、増加傾向にある。



(6) [図 4-6]年齢層ごとの受傷原因

7～17 歳と 18～64 歳では、「交通事故」の占める割合が約 45%と高くなっています。

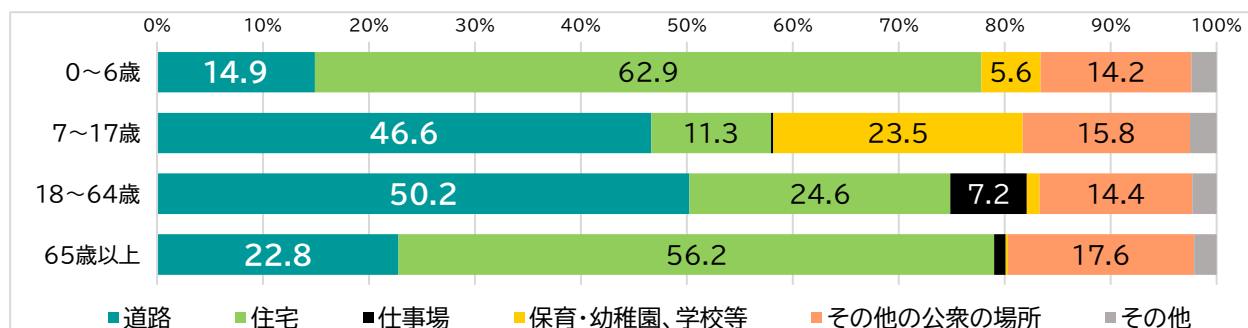
また、0～6 歳と 65 歳以上では、「転倒・転落」の占める割合が高く、特に 65 歳以上では、70%以上を占めています。さらに特徴として、0～6 歳では「誤飲」、7～17 歳では「運動中のけが」、18～64 歳では「労働災害」や「自損行為」が他の年齢層と比較して高くなっています。



(7) [図 4-7]年齢層ごとの受傷場所

0～6 歳と 65 歳以上では、「住宅」の占める割合が約 60%と高くなっています。

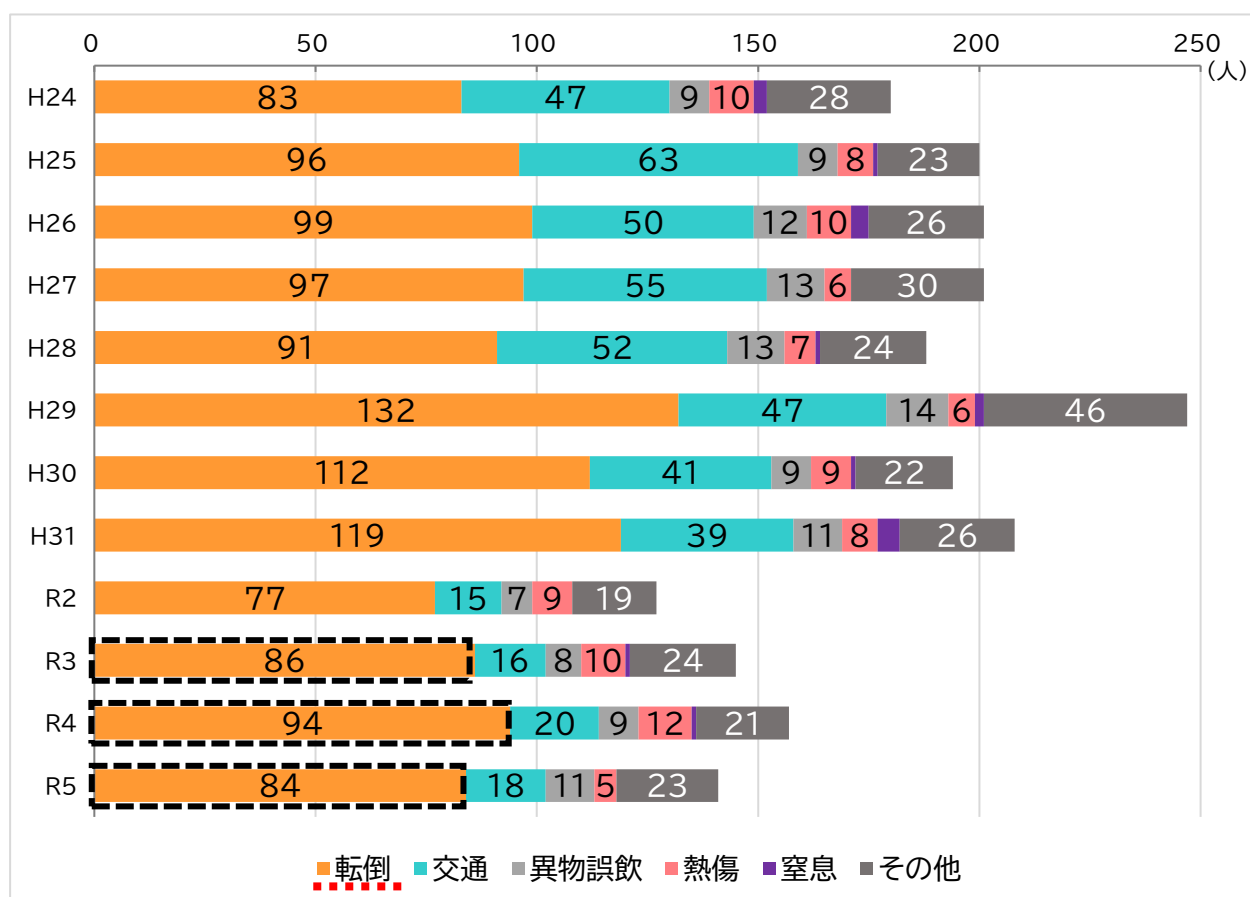
また、7～64 歳では、「道路」の占める割合が約 50%と高くなっています。さらに特徴として、7～17 歳では、「学校等」の占める割合が他の年齢層と比較して高くなっています。



(8) 年齢層ごとの事故種別内訳

①[図 4-8]乳幼児 (0～6 歳)

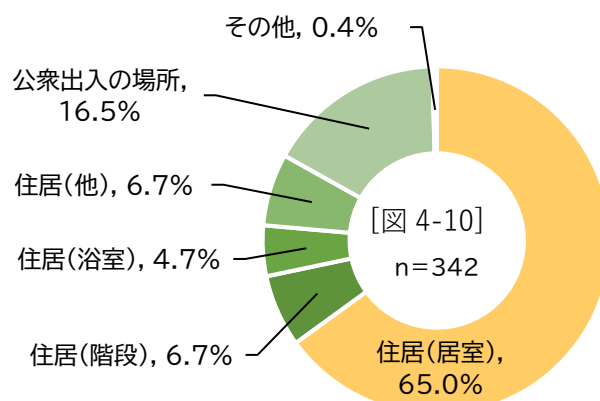
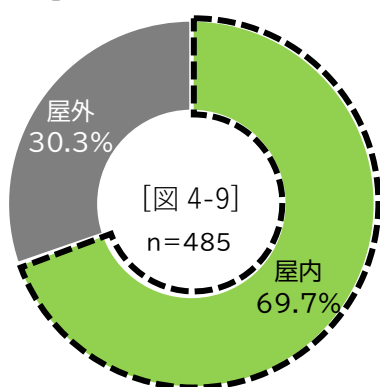
コロナ禍以降、搬送人員数は増加傾向にある。特に転倒・転落による搬送が増加している。



乳幼児の転倒場所の多くは、屋内である。また、屋内のうち、約 7 割が居室で発生している。

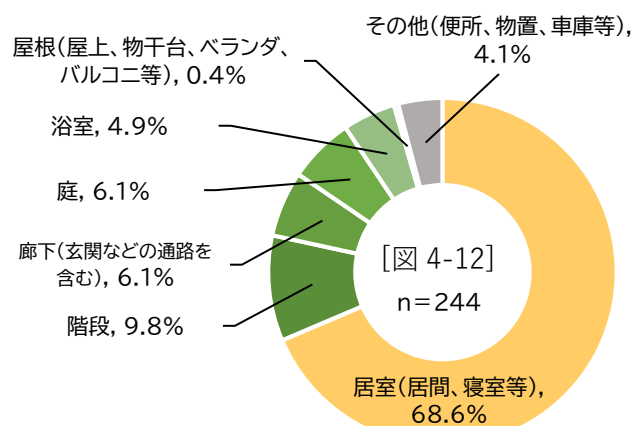
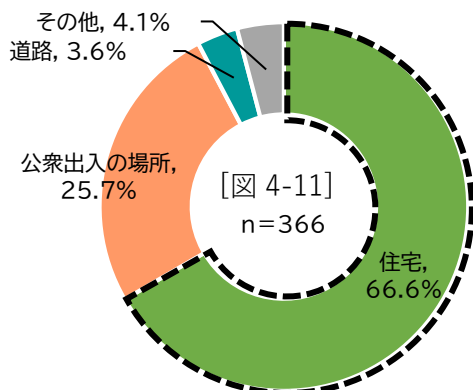
■乳幼児の転倒場所の割合（R2～5 年の合計） → ■屋内の場所（※R2～5 年の合計）

【屋内・屋外】



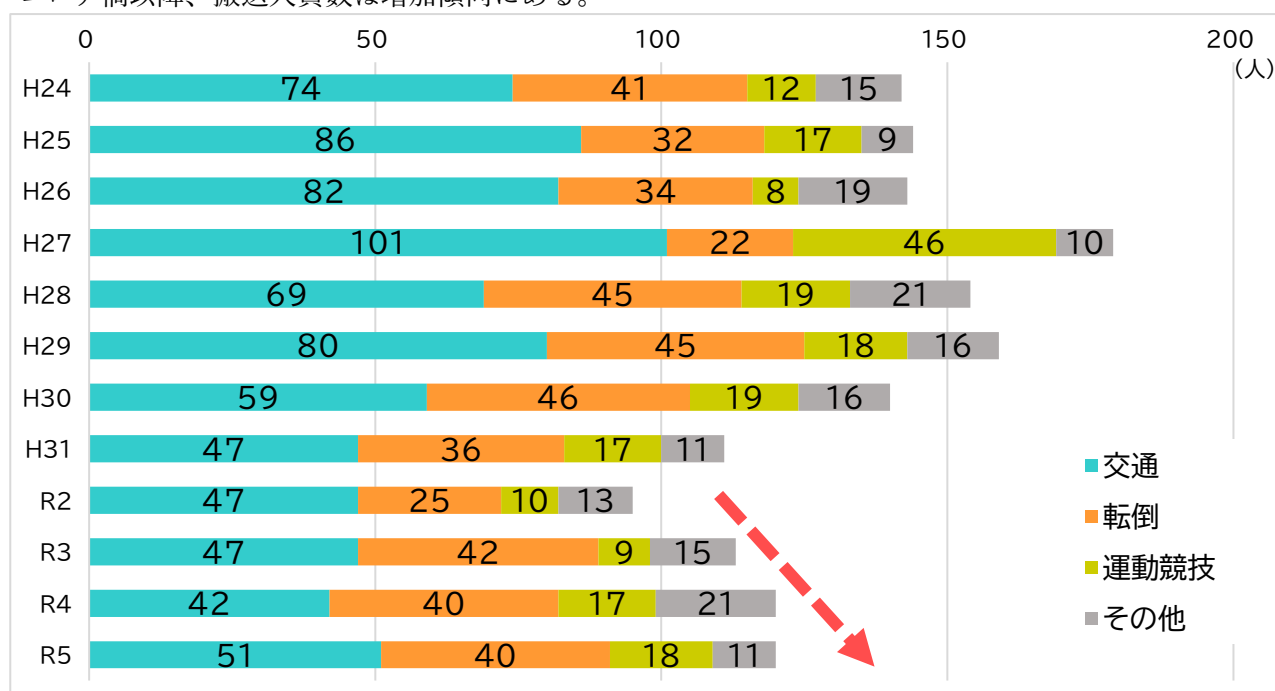
■乳幼児の転倒場所の割合（R2～5 年の合計） → ■住宅の内訳（※R2～5 年の合計）

【住宅・公衆出入の場所・道路・その他】



②[図 4-13]小学生

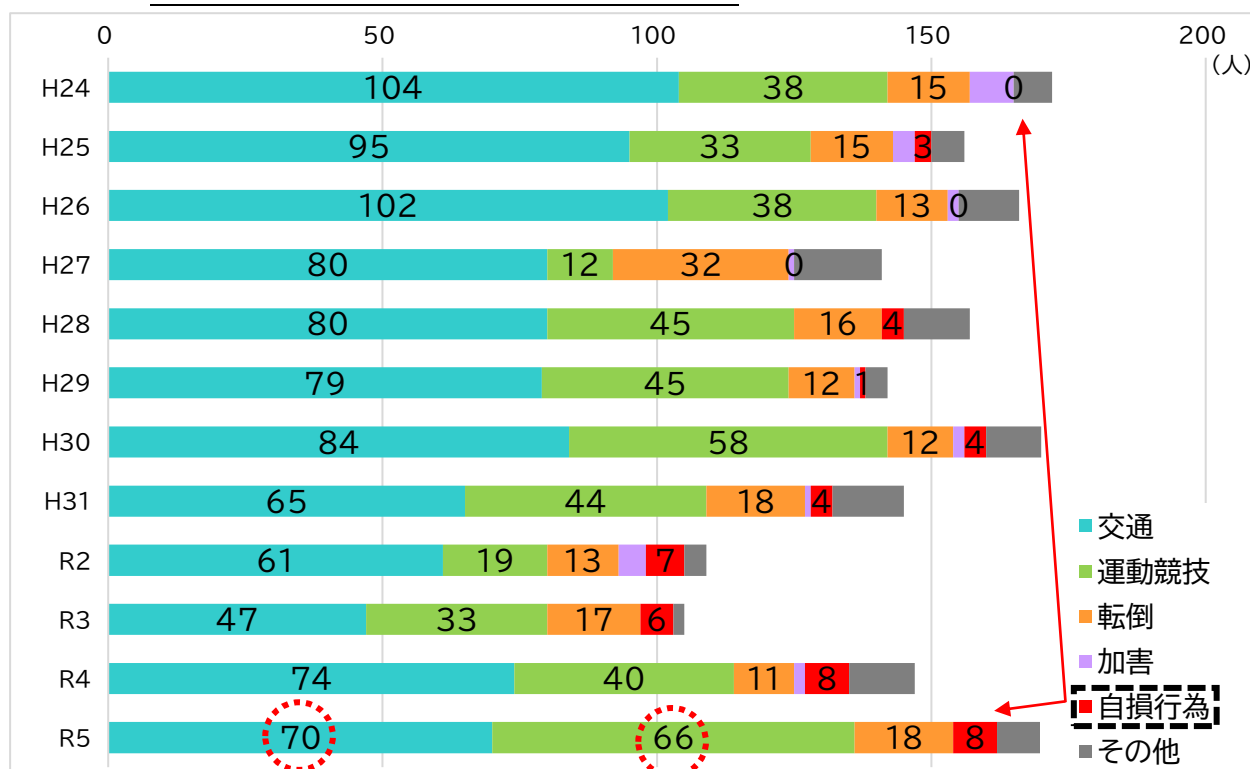
コロナ禍以降、搬送人員数は増加傾向にある。



③[図 4-14]中高生

近年は交通事故や運動競技による救急搬送が急増している。

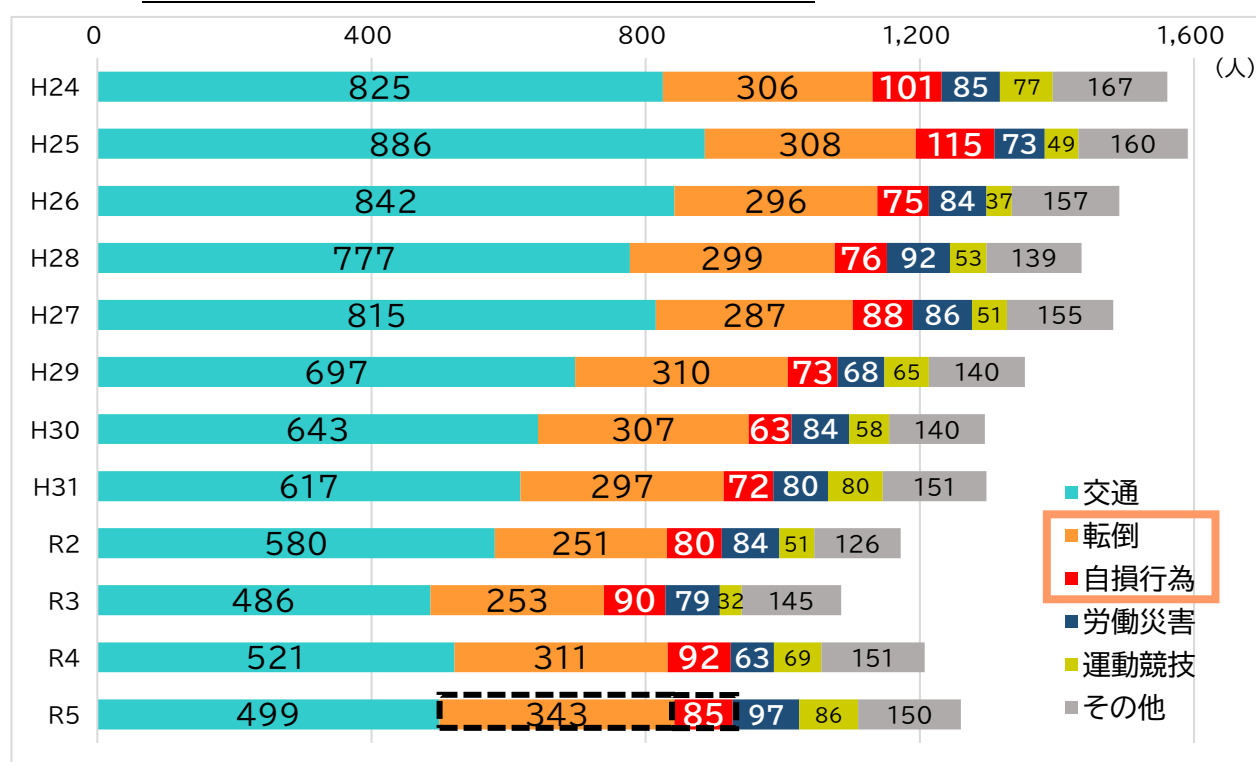
また、以前と比べ自損行為による搬送件人員数が増加している。



④[図 4-15]成人

H30 年以降、自損行為による搬送数が増加傾向にある。

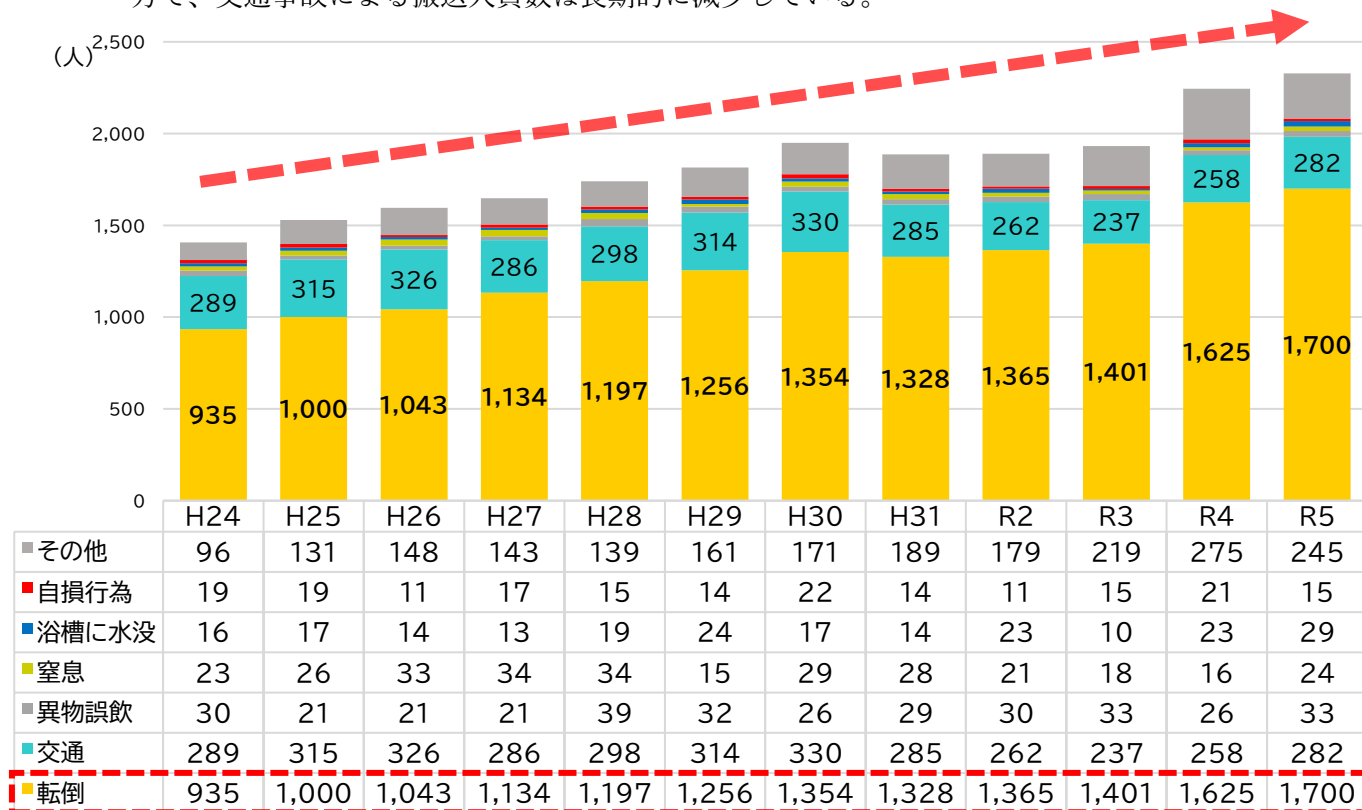
また、コロナ禍以降は転倒・転落等による搬送が大幅に増加している。



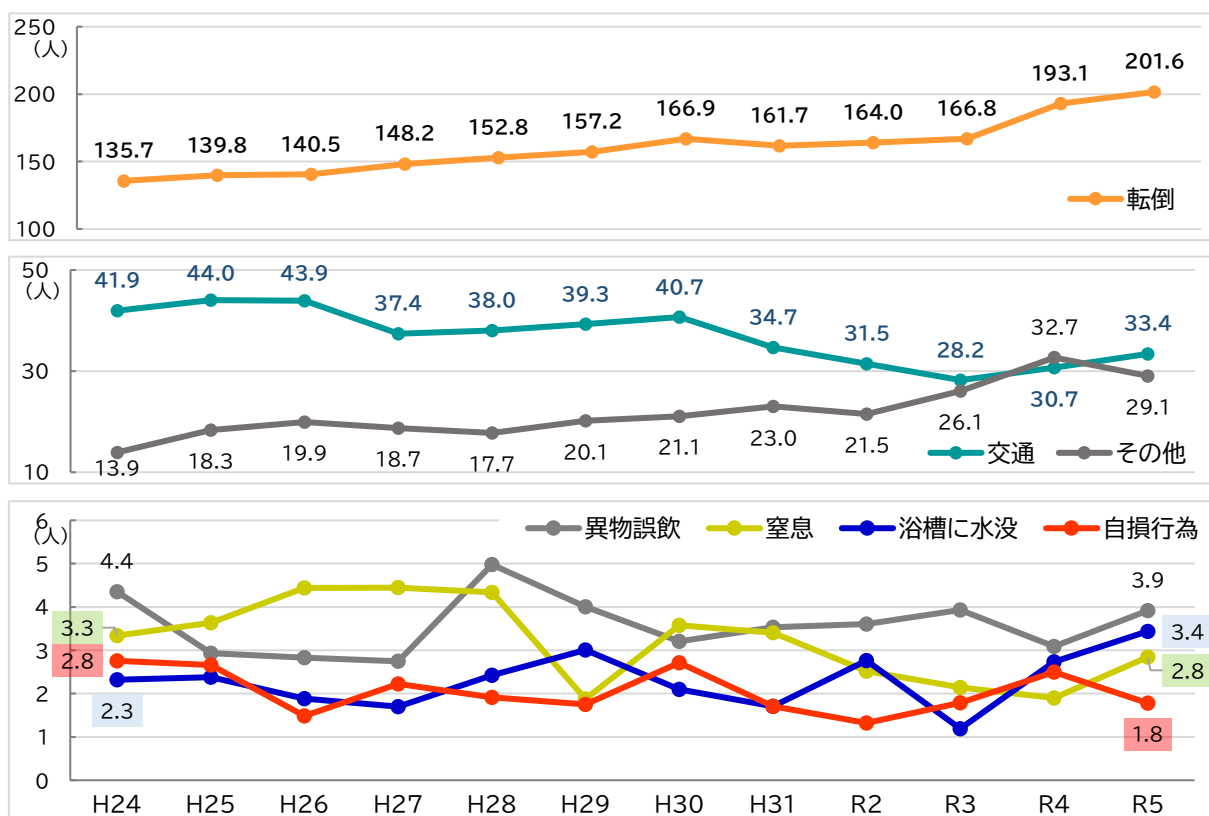
⑤[図 4-16]高齢者

救急搬送人員数は増加傾向にある。特に、転倒転落による搬送数が増加している。

一方で、交通事故による搬送人員数は長期的に減少している。



■[図 4-17]高齢者人口 1 万人当たりの事故種別の救急搬送人員数

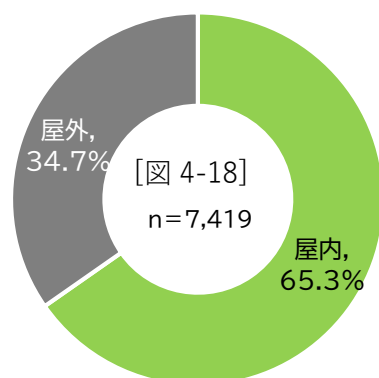


転倒場所は、60～70%が屋内である。

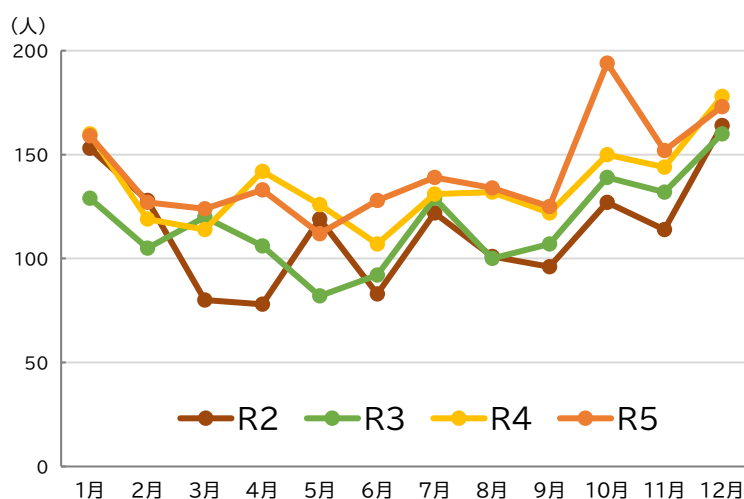
また、10月から1月にかけて転倒による搬送人員数が多くなる

■高齢者の転倒場所の割合

(R1～5年の合計)

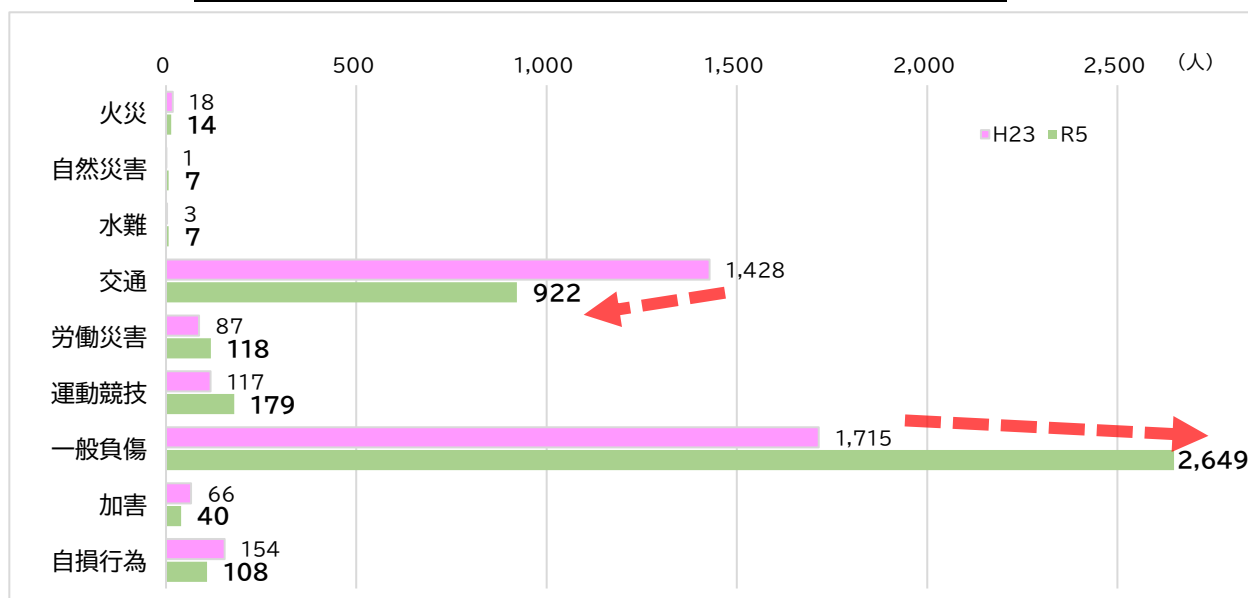


■[図 4-19]月ごとの高齢者の転倒による搬送人員数



(9) [図 4-20]事故種別ごとの搬送人数（全年齢）

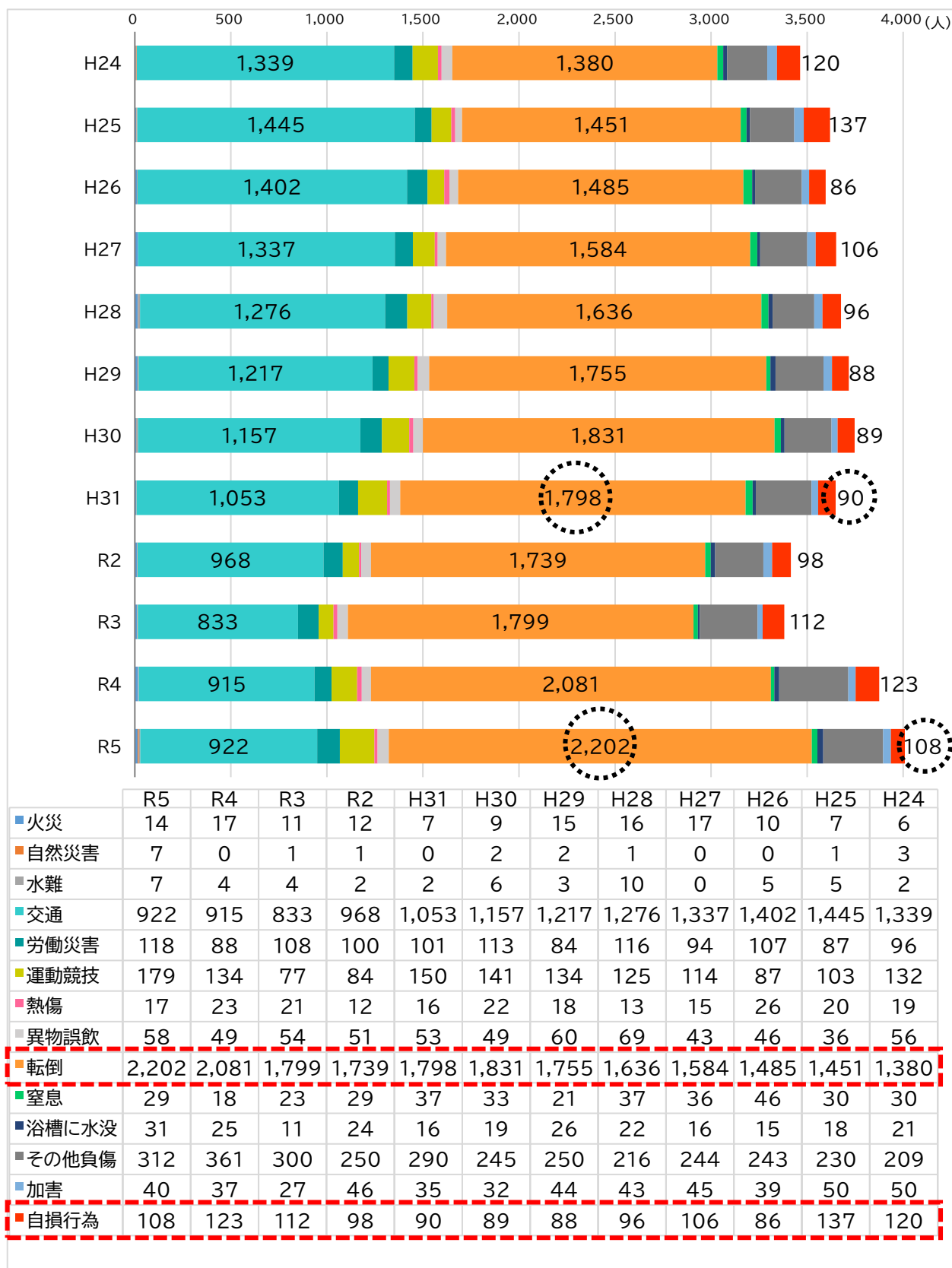
事故種別を見ると、SC の取り組みを始めた H23 年と同様に、現在も「交通事故」と「一般負傷」が圧倒的に多いが、交通事故による搬送は減少し、一般負傷は大幅に増加している。



※一般負傷：転倒(転落)、熱傷、誤飲、窒息等

(10) [図 4-21] 事故種別ごとの搬送数 (全年齢)

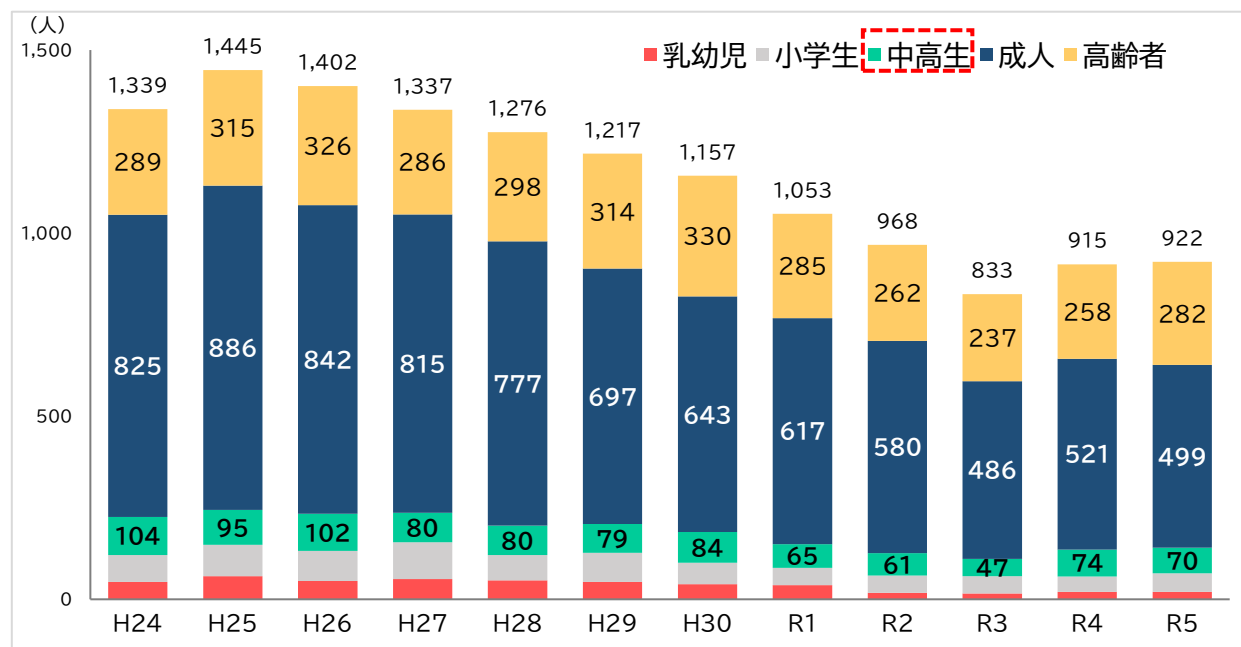
転倒・転落等と自損行為による搬送がコロナ禍前より増加している。



(11) 事故種別ごとの年齢別内訳

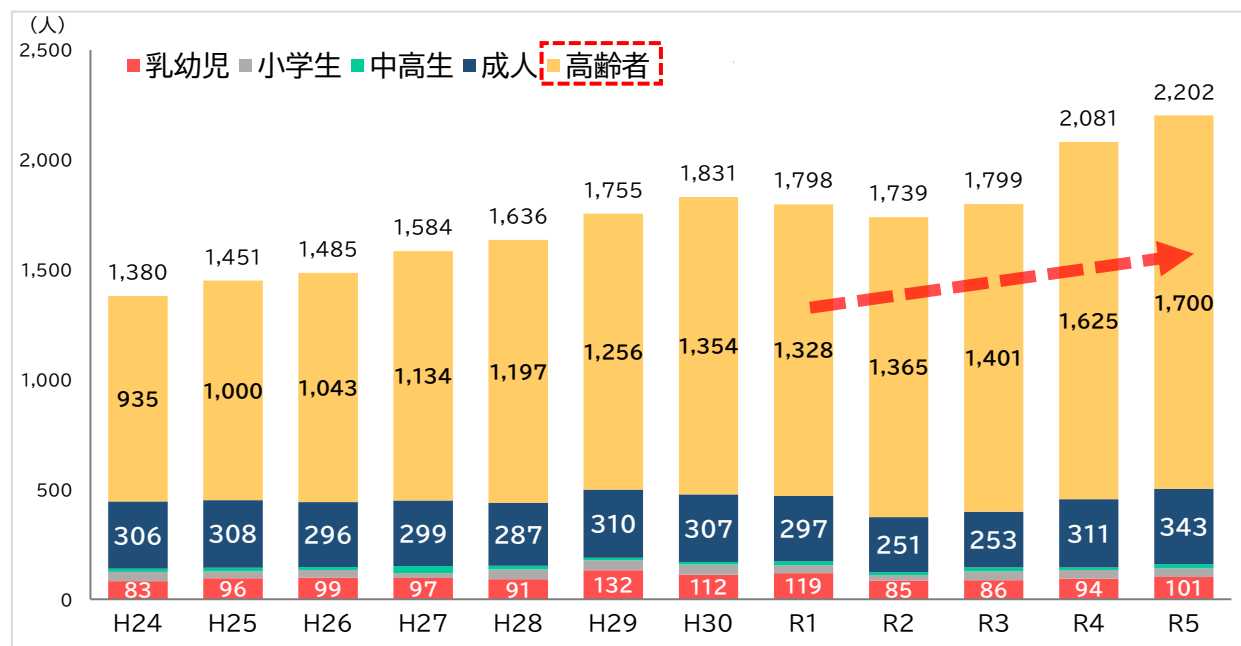
①[図 4-22]交通事故

交通事故による救急搬送人員数は長期的に減少傾向にあるが、中高生はコロナ禍前の値を上回って増加している。



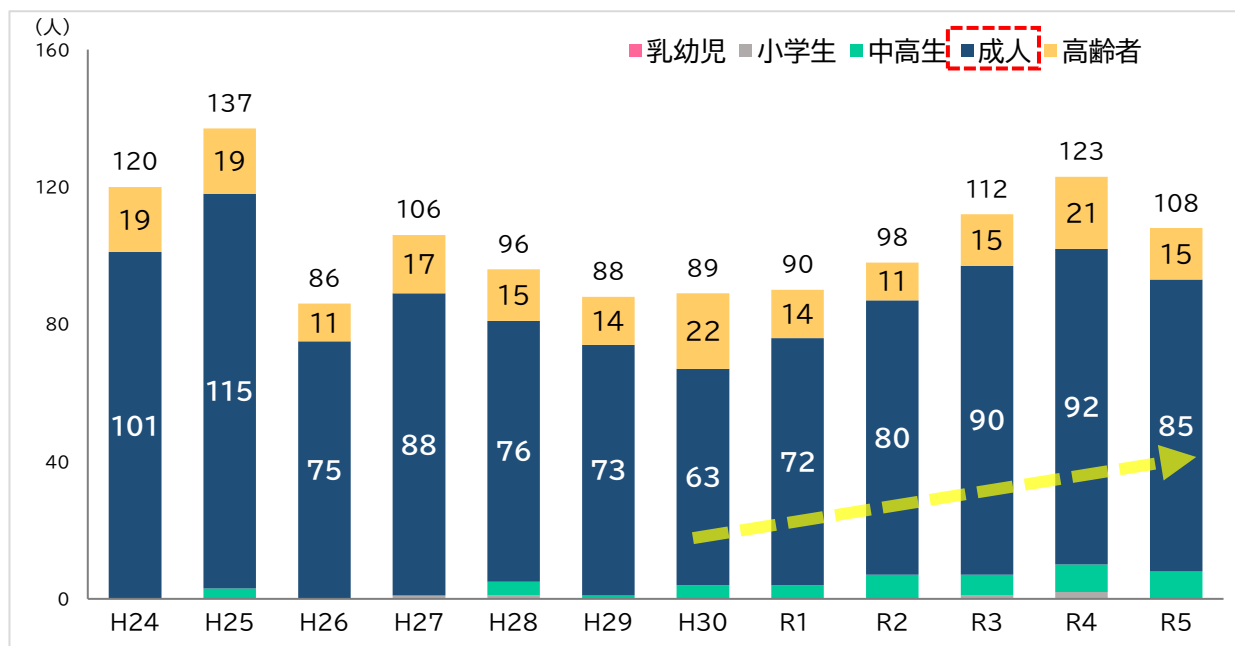
②[図 4-23]転倒

転倒による搬送人員数は、高齢者が増加傾向にある。



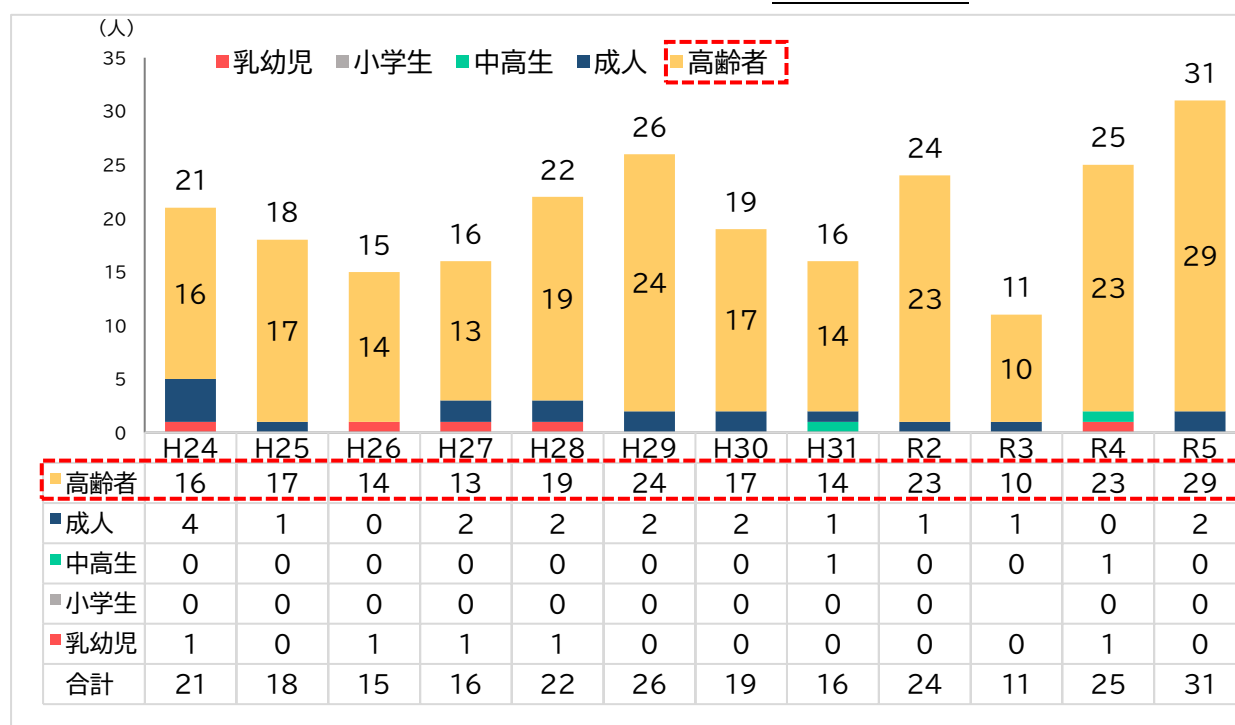
③[図 4-24]自損行為

自損行為による搬送人員数は増加傾向にあり、特に成人の搬送数が増加傾向にある。



③[図 4-25]溺死・溺水

溺死溺水による搬送人員数の多くは、高齢者が占めており、増加傾向にある。



(12) 発生場所「浴室（シャワー室、洗面所を含む）」の搬送人員数（65 歳以上）

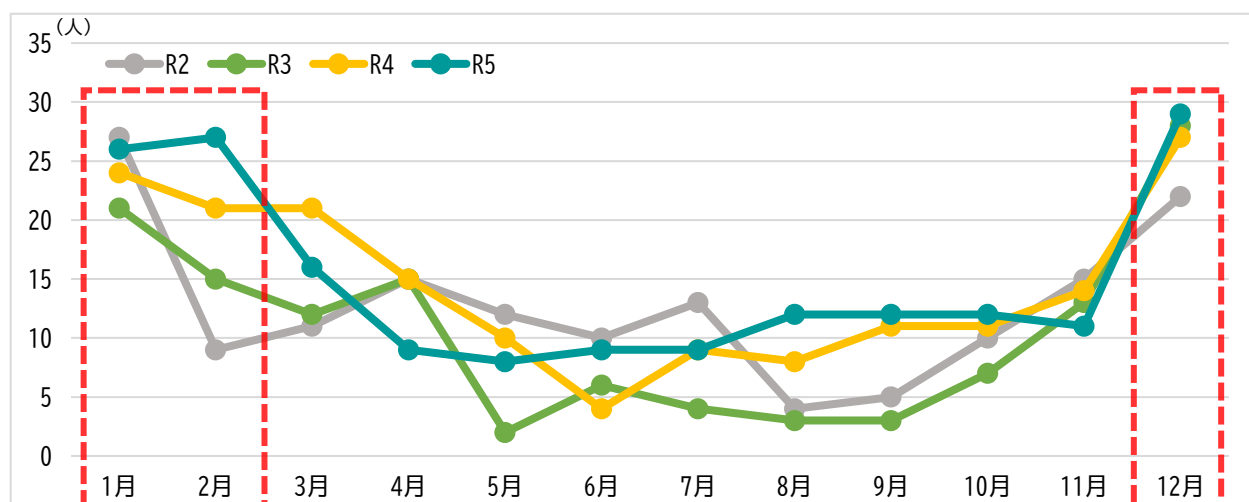
※火災、自損行為は除く

※外因によるものだけでなく急病等も含む

冬は搬送人員数が多くなる。

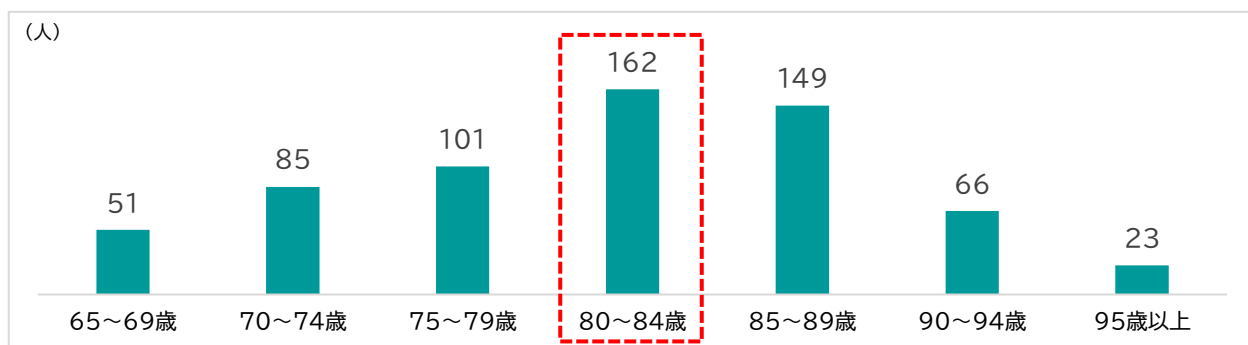
80～84 歳になると急増する。

■[図 4-26] 月毎の浴室からの高齢者の搬送人員数（R2～R5）



■[図 4-27] 年齢ごとの搬送人員数（R2～R5）

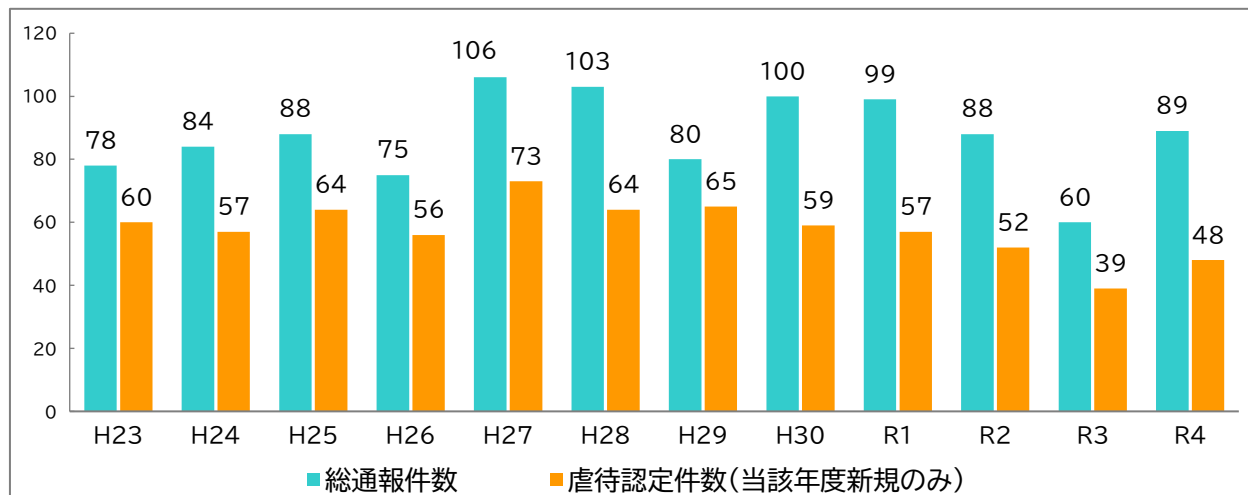
n=637



3 高齢者虐待に関する状況（長寿支援課集計）

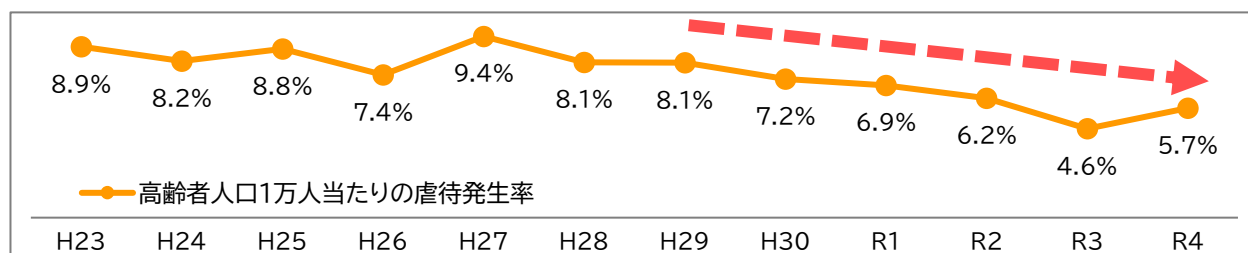
（1）[図 9-1]高齢者虐待に関する相談件数と認定件数

近年、虐待認定件数は減少傾向にあったが、令和 4 年度は前年に比べ増加している。



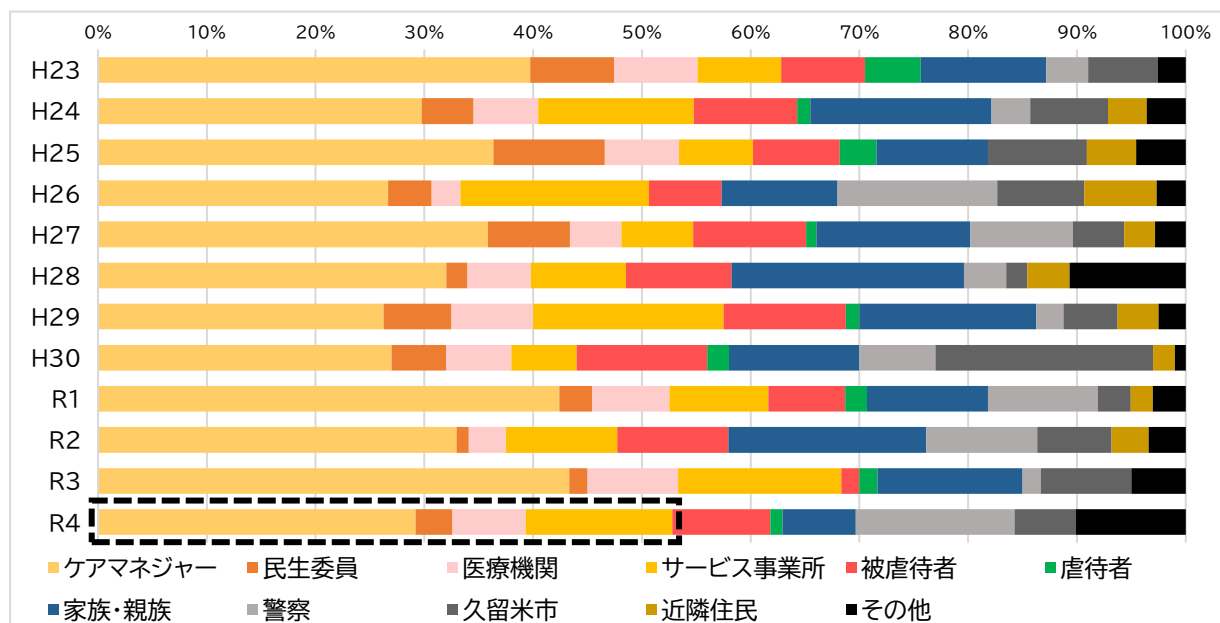
■[図 9-2]高齢者人口 1 万あたりの虐待発生率の推移

長期的には減少傾向にある。



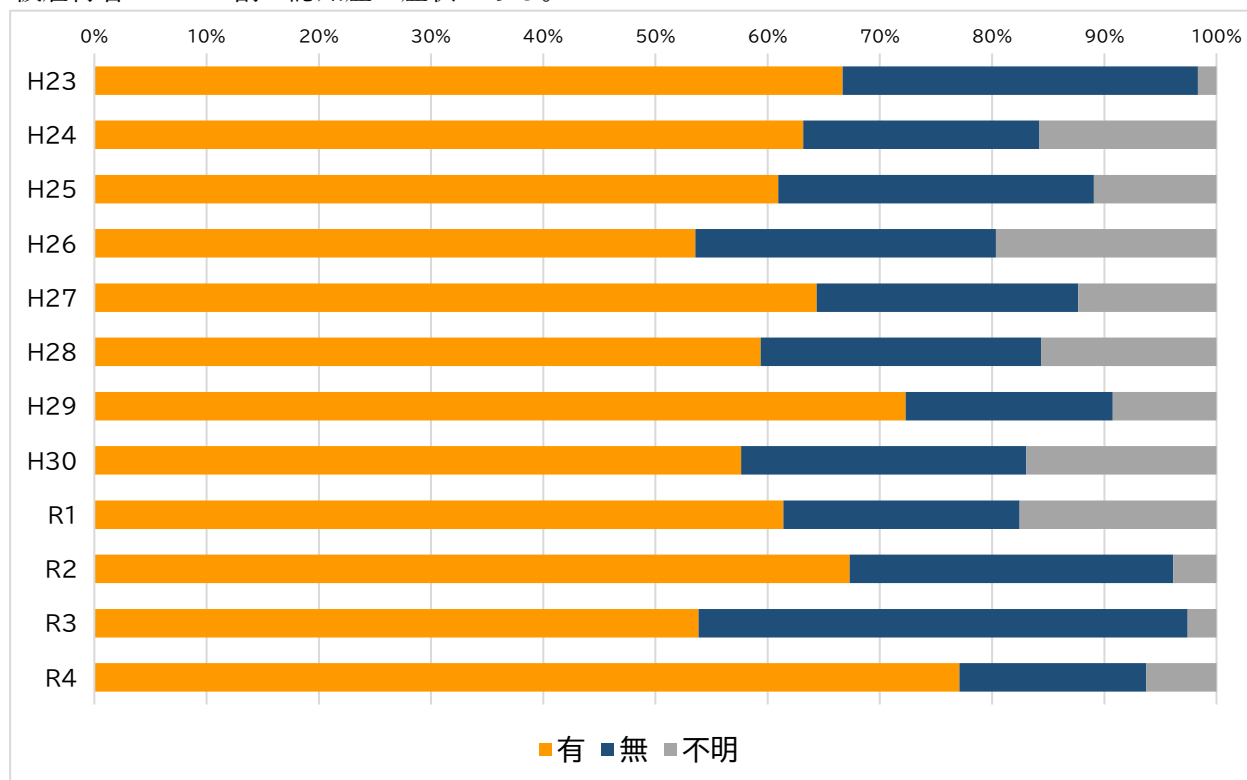
（2）[図 9-3]経路別の相談・通報件数の割合

相談・通報の約 5 割が、ケアマネジャーや民生委員など地域の関係者からの通報によるものである。



(3) [図 9-4]被虐待者の認知症の割合

被虐待者の 6～7 割に認知症の症状がある。



(4) [図 9-5]虐待者の割合

虐待事例の多くが同居親族によるものである。

